

人頭形土製品

南羽鳥中岫第1遺跡E地点は、約300あるお墓を集落の中央に配する環状集落（縄文時代前期 約6000年前）が見つかりました。お墓の中からは、耳飾や垂飾などの装飾品や石匙、赤く塗られた浅鉢が出土しています。

なかでも、人間の頭部を写実的に表現した「人頭形土製品」の発見は、新聞紙上をにぎわし、人々の注目を集めました。人頭形土製品は、お墓の中に横向きで埋納されており、目を閉じた表情は、死に顔を思わせるかのようです。

成形方法は土器と同様のため、容器にもなります。目や鼻などの突起部分は、粘土を貼り付けていますが、顔の表情に不必要的髪や耳は省いています。また首にあたる部分には、小穴が4カ所対称にあいており、使用方法を考えるうえで、ヒントとなるでしょう。

人頭形土製品は、今のところ他に出土例はありません。このような特殊なものを副葬された人物は、集落内でも特別な人物であったと思われます。

人頭形土製品 出土状況(2号土坑)

